

城陽市教育委員会

城陽市民アカデミー 教養講座 2014 0718

京のしまつ
もったいない精神

京都府立大学生 命環境科学研究科

環境デザイン学科・三橋俊雄

地球の環境問題・資源問題

1968 : Spaceship Earth (宇宙船地球号)

バックミンスター フラー Buckminster Fuller

アメリカ
建築家

1972 : The Limits to Growth (成長の限界)

ローマクラブ The Club of Rome

1973 : Small is Beautiful (人間中心の経済学)

E.F.シュマッハー E.F.Schumacher

イギリス
経済学者

中間技術・適正技術 (Appropriate Technology)



京のしまつ・もったいない



京の華やぎ・京の着だをれ

京の華やぎ

げにげに花の都、四条五条の人通り、・・・遠国とは違ふて是は是はそれはと見るに
下には水鹿子の白むく、上にはむらさきしぼりに青海波（せいがいほ）、紋所は銀にてほの字
切りぬかせ五所（いつところ）のひかり、帯はむらさきのつれ左巻、・・・

京の春の景色は女性たちの美装によって、よりあでやかに彩られていた。

江戸初期

井原西鶴

好色一代男

卷四・目に三月

菱川師宣画

貞享1(1684)年



京の着だをれ

江戸後期

十返舎一九

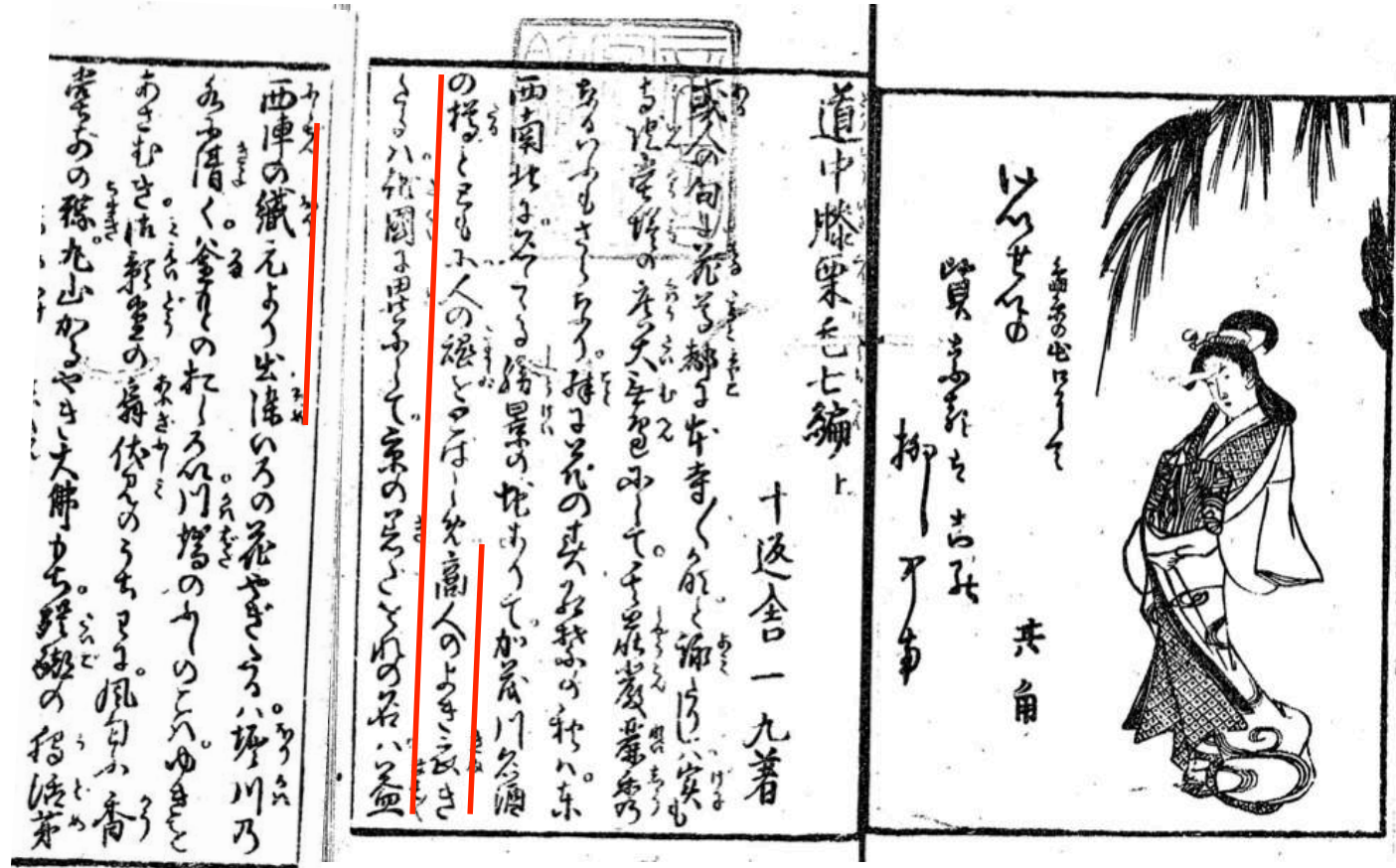
東海道中
膝栗毛

七編・京都めぐり

1802~1814

勝川春亭の口絵

(西国・伊勢への
観光ブーム)



商人のよき衣きたるは他国と異にして、京の着だをれの名は、
益々西陣の織元より出、染色の花やぎたるは、堀川の水に・・・

島原の出口にて けいせいの 賢きなるは この柳かな 其角 (きかく)

京の着だをれ

その華麗な「ハレ」の生活様式を支えるものとして
日常の「ケ」の生活があり、「しまつ」という生活哲学がある。

京のしまつ・もったいない

京のしまつ・もったいない

「三条室町 聞いて極楽 見て地獄 おかゆ隠しの長暖簾」



あこがれて奉公に上がった老舗ではあるが、実は
営々と続く家訓を厳守し、決して華美な生活などお
くっていない

季節ごとに着るものまできちんと決められ、食事も
質素儉約を旨とする

祭りなどの「つきあい」で義理を欠くことは決して
ないが、日常生活は極めて慎ましいのが当たり前

店の主人から奉公人まで一緒になって「おかゆ」を
すする

京のしまつ・もったいない

江戸後期の
儒学者

■ 広瀬旭荘（1807-1863）「九桂草堂隨筆」

京の人は細成り。大坂の人は貧なり。江戸の人は夸（か）なり。

南総里見
八犬伝

■ 滝沢馬琴（1767-1848）

大坂人の気質は、京四分に江戸六分、儉は京に学び、活は江戸に習う

■ 大村しげ（1918-1999）『しまつとぜいたくの間』

京のおば
んざい

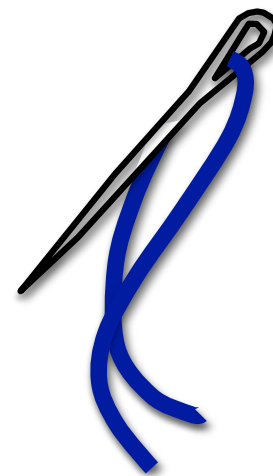
しまつとぜいたくは背中合わせ

糸のしまつ・もったいない

残った糸くずの しまつ？ 利用？

糸のしまつ・もったいない

残った糸くずで雑巾を縫う



京のしまつ・もったいない

1) 米のとぎ汁のしまつ

- ・米のとぎ汁で筍の灰汁抜きをする

2) 水のしまつ

- ・上バケツと下バケツの水を使い分ける

3) 食材のしまつ

- ・使ったお茶の葉で佃煮をつくる

4) 着物・布のしまつ

- ・着物で布団や座布団を作る

悉皆屋

5) 布団のしまつ

- ・布団を打ち直す

6) 道具のしまつ

- ・鍋は鋳掛け屋で直してもらう

7) 家具のしまつ

- ・障子をはりかえる

8) 紙のしまつ

- ・和菓子をのせた懐紙をもう一度使う

9) 糸・ひものしまつ

- ・残った糸くずで雑巾を縫う

10) その他のしまつ

- ・髪の毛を残しておいて針山の中身にする

記憶の中の「京の暮らし」調査研究 2000-2001

府内生活学校の高齢者115人、上中下京区中学生の親211人から114項目聞き取り

江戸のもったいない

江戸社会は、古紙再生に限らず使えるものは修理・再生しながら、徹底的に使い回していた。ゴミまでが燃料・肥料・埋め立て用に区別され、町並みはともきれいだっただ。日本を訪れた当時の外国人たちは、町の清潔さに一様に驚いたという。

<http://www.gakken.co.jp/kagakusouken/spread/oedo/02/kaisetsu3.html>



古着屋
普段着は古着が当たり前。商人の古着屋、回収業の古着買い、再生業の古着仕立屋の分業が確立していた。



蠟燭の流れ買い
溶けた蠟を集めて再生する

木っ端売り
建材や廃材の木っ端を集め薪として売ったり付け木屋に売る。



古傘買い
壊れた傘を下取りして再生する。破れた油紙は味噌や魚の包装紙に、折れた骨は年料にする。



付け木売り
木っ端などを薄く削り硫黄を塗って発火燃焼材として売る。

空き樽買い
使用済みの樽を回収、問屋に売って再利用する。



灰買い
竈の灰を買い集める。灰は肥料として灰市などで売られる。



ほうき買い
新品と交換するが、古いシュロのほうきは、解いて縄にしたり、たわしに再生する。



鑄掛屋(いかけや)
鍋や釜の破損を修理する。



瀬戸物焼き継ぎ
欠けた陶磁器を白玉粉で焼き継ぐ。



たが屋
壊れた桶やたがの修理をする。



竈(かまど)師
へっつい(かまど)を直す。



下駄の齒入れ
下駄の修理や歯の交換。



古椀買い
古椀は漆を塗り直すなどされて売られる。



雪駄直し
履物の修理をする。



算盤直し
算盤の修理をする。



錠前直し
壊れた錠や鍵を直す。



羽織の紐直し
羽織の紐を交換する。



羅宇屋
煙管の竹を交換する。



提灯の張り替え
紙を張り替え、屋号などを書き入れる。



白の目立て
減った白の目を立てる。



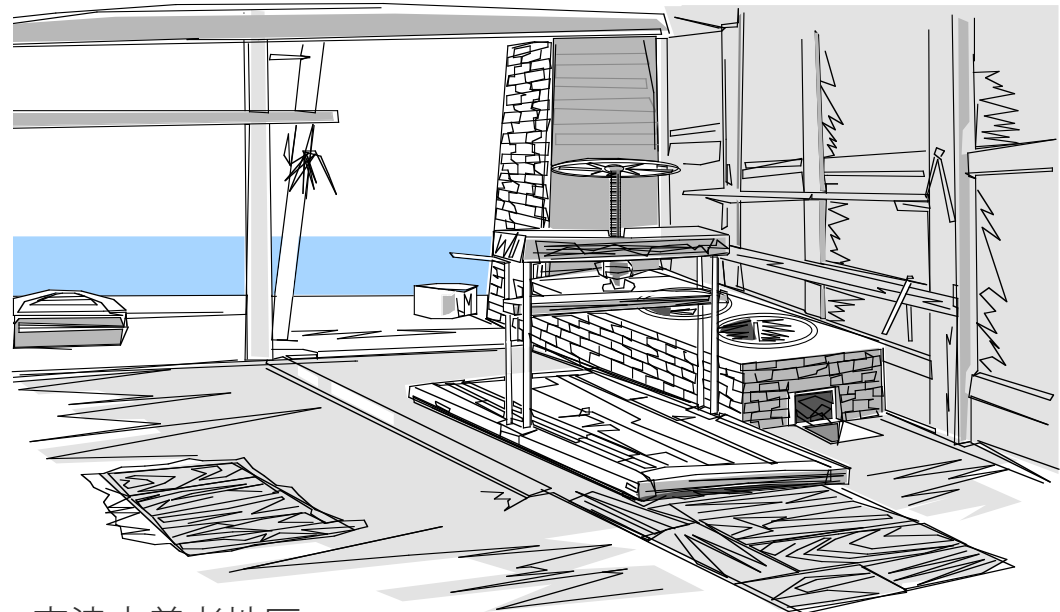
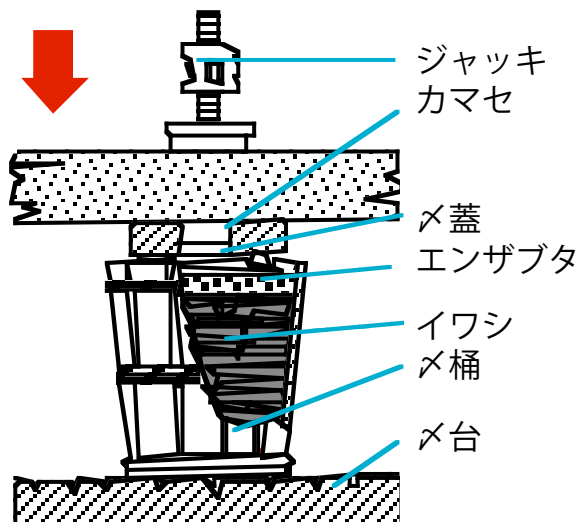
馬糞拾い
道端の馬糞を拾い肥料として売る。



ごみ取り
町と契約し、長屋などのごみ溜めのごみを燃料、肥料、埋め立て用に分別回収する。

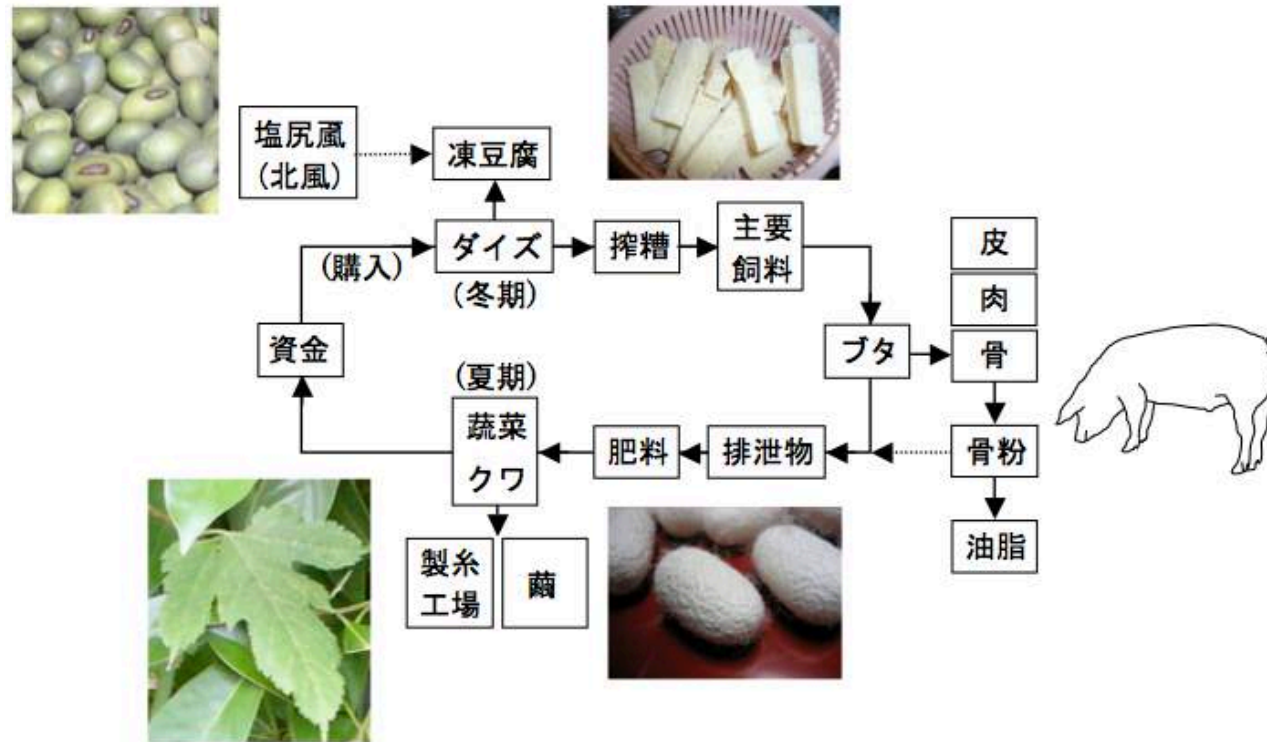
鯛のもったいない

イワシを大なべに入れて「くど」と呼ばれるかまどで煮る。煮上がったらスクイデですくい、シメ桶に移す。シメ桶には脇に隙間が開けられている。蓋をしてジャッキで締めていくと、桶の隙間からシメ汁がでてくる。シメ汁は床下でイワシ油（石けん原料）とシメ汁（桑の肥料）に分離される。一方、搾った後のシメカスはカケヤで崩し、天日で干して俵に詰められ、肥料会社に舟で運ばれる。



宮津市養老地区

共生循環・もったいない

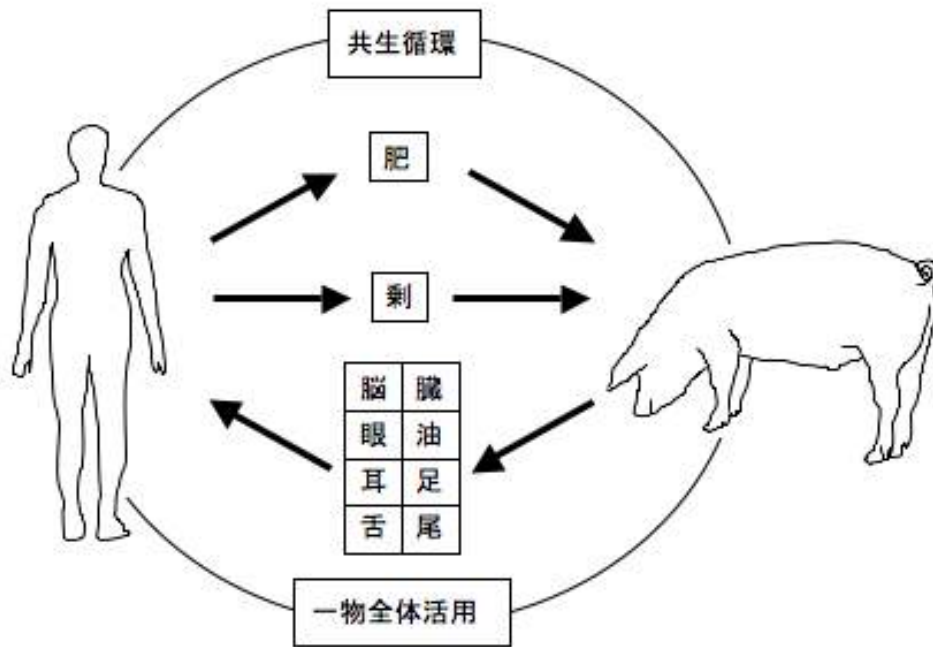


- 1) 冬期、寒い塩尻風(しおじりおろし)が吹く晩に、大豆で凍み豆腐(しみどうふ)をつくる。
- 2) 豆腐の絞りかすは豚の主要飼料となり、豚の排泄物は養蚕用のクワの肥料や夏期蔬菜の肥料となる。
- 3) 一方、豚は、肉・皮以外に骨は骨粉(肥料)や油脂として利用される。
- 4) 蚕はクワを食べて繭をつくる。その繭は製糸工場で生糸に紡がれる。
- 5) 繭を売った収入は、冬期の凍み豆腐づくりに向けて、大豆購入の資金となる。

かくして、**塩尻峠横川部落**の「気候風土」と「凍み豆腐づくり」「養豚」「養蚕」は、互いに有機的に関わながら、共生循環の輪を成り立たせてきた。 (三澤勝衛、風土産業、古今書院、1952、より)

台湾・豚のもったいない

台湾客家・豚の一物全体食・共生循環



人間の食さない部分、食べ残し部分、及び、余剰生産の部分の家畜の飼料として、また、豚のすべての部位を無駄なく食材として活用し、さらに、生ごみと下肥を田畑に還す回路にするなど、そこには「一物全体活用・共生循環」としての客家の食文化を見ることができる。

仏教用語

一物全体食・もったいない



ウド



地中茎：酢の物



皮：きんぴら



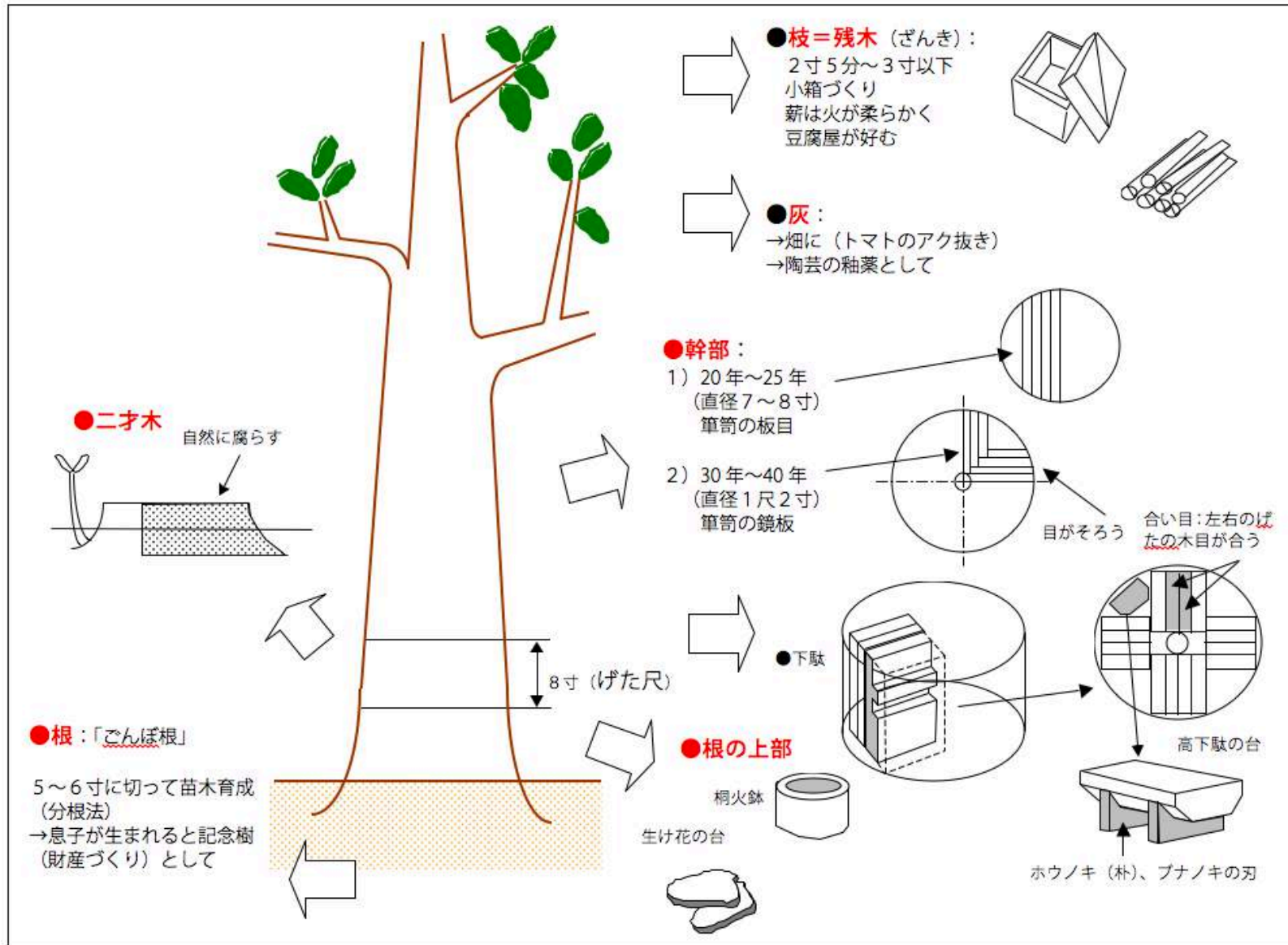
若芽：天ぷら



茎：煮付け

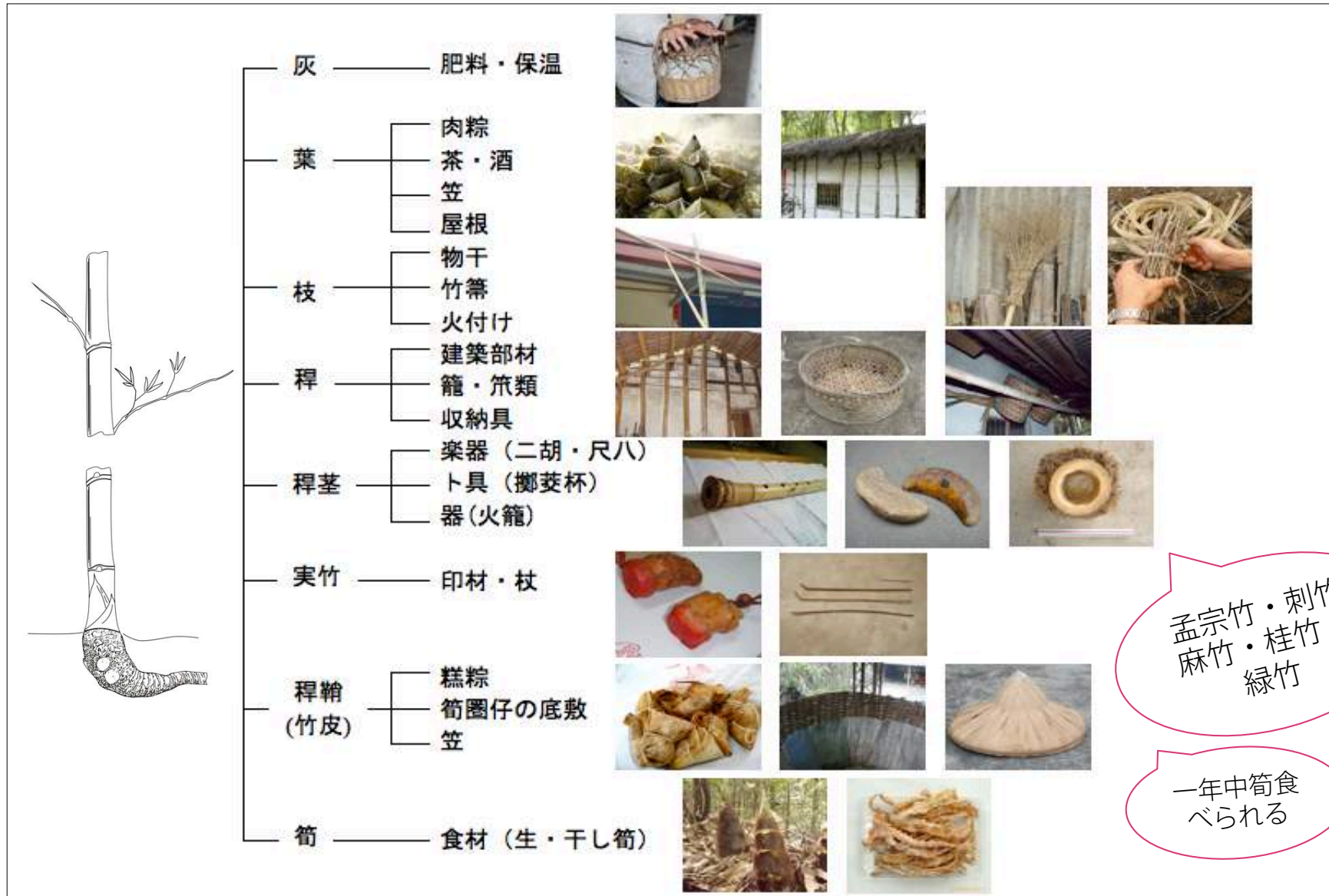
生物が生きているというのは、丸ごと全体で様々なバランスが取れているということであり、そのバランスのまま人体に摂取することが人体内のバランスを取るのにも望ましいという考え方

一物全体活用・もったいない



福島県三島町の会津桐にみる一物全体活用

台湾竹の一物全体活用・もったいない

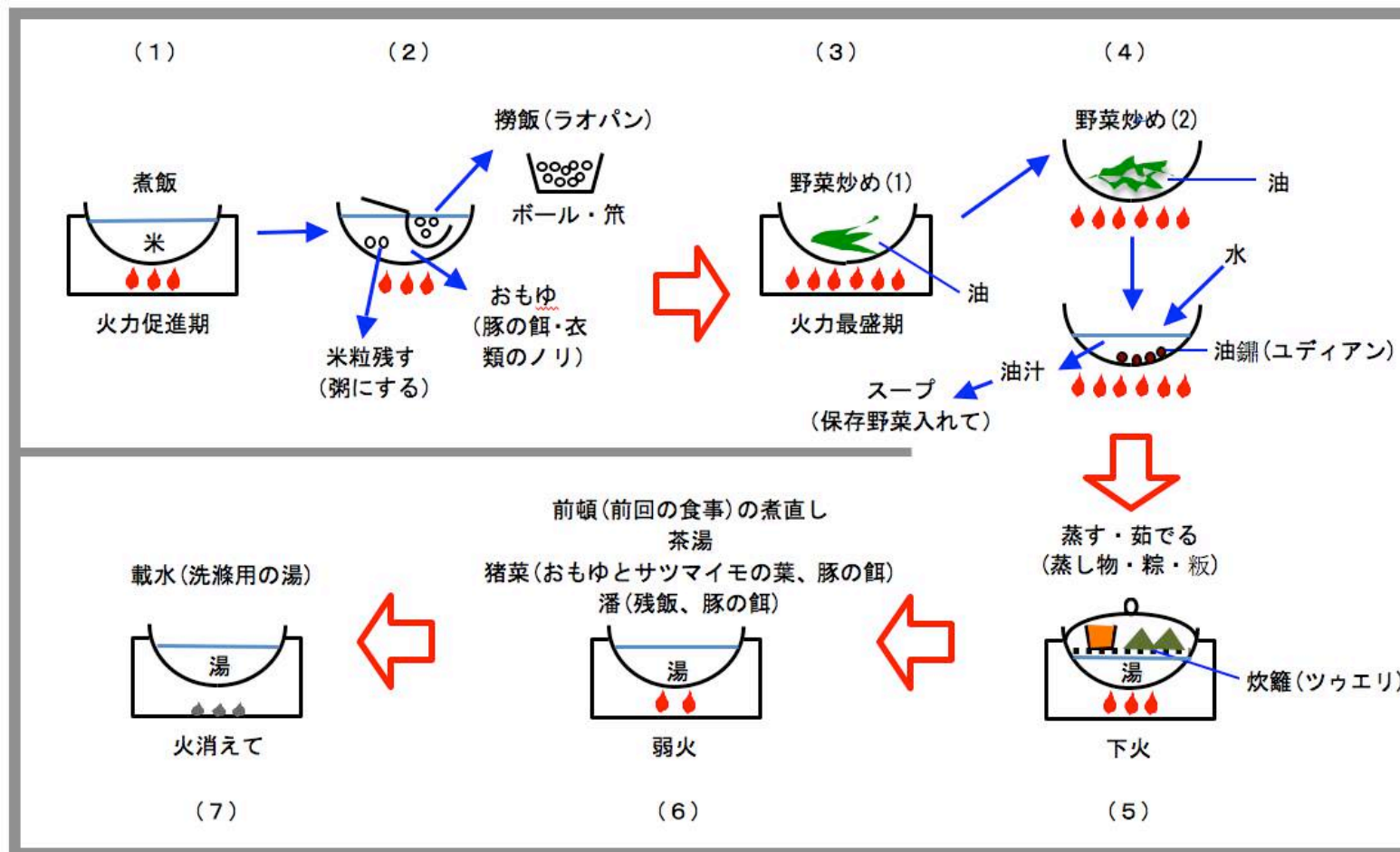


孟宗竹・刺竹
麻竹・桂竹・
緑竹

一年中筍食
べられる

台湾客家の大鍋食文化・もったいない

火の加減に合わせて、炊飯、おもゆ、粥、野菜炒め、スープ、蒸し物、粽、粄、豚の餌、洗滌用の湯沸かしなど、1つの大鍋で、火を無駄にせず、多様な調理を行う



ブリコラージュ・もったいない

自然の造形を道具に見立てて使う

宮津市養老・奥波見集落（桶職人YT氏手作り）



方杖

雪の重みで曲がった根曲り材を、田んぼ脇の農具小屋の屋根の支え「方杖（ほおづえ）」として生かしている



背板・ショイコ



梯子掛け用フック

今も現役



砥石台（2011年11月）

木の幹と枝の部位である自然の造形の一部を「道具（砥石台）」として見立て、生かしている



イツキの枝の物掛け棒と杖

ブリコラージュ・もったいない

ブリコラージュを生かした根曲がり材のベンチづくり

背中がぴっ
たり！



宮津市

地球デザインスクール

ブリコラージュ・もったいない

竹箸・竹皿・竹コップづくり・竹筒炊飯

孟宗竹で
食器づくり



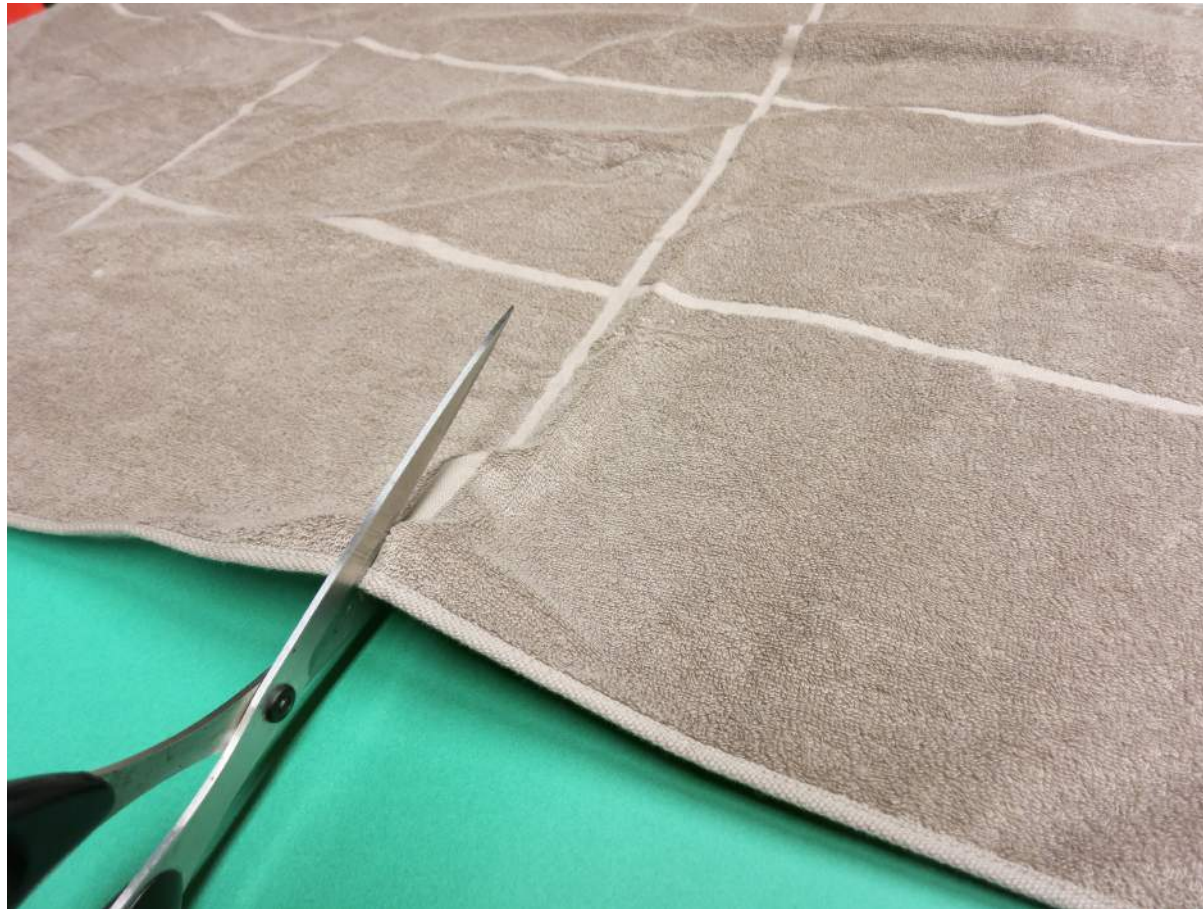
竹筒炊飯



2008年12月

もったいないのデザイン

その次があるバスタオル（バスタオル→バスマット→雑巾→ウエス）



使い終わったその先の利用まで、初めのデザインに埋め込まれている。

もったいないのデザイン

アップ・サイクル

リサイクルの上を
行く



色鉛筆ネックレス



レゴ・ハイヒール

もったいないのデザイン

ペットボトル・ペン立て／小物入れ



トナー脚テーブル



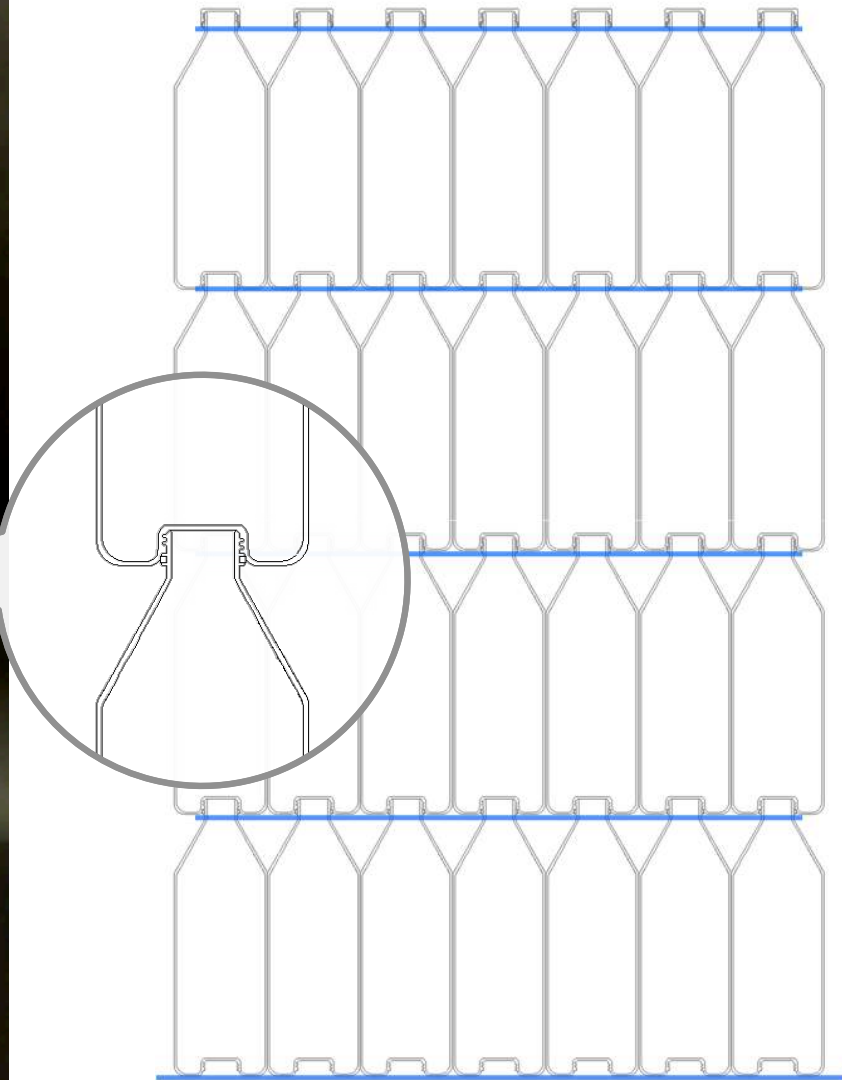
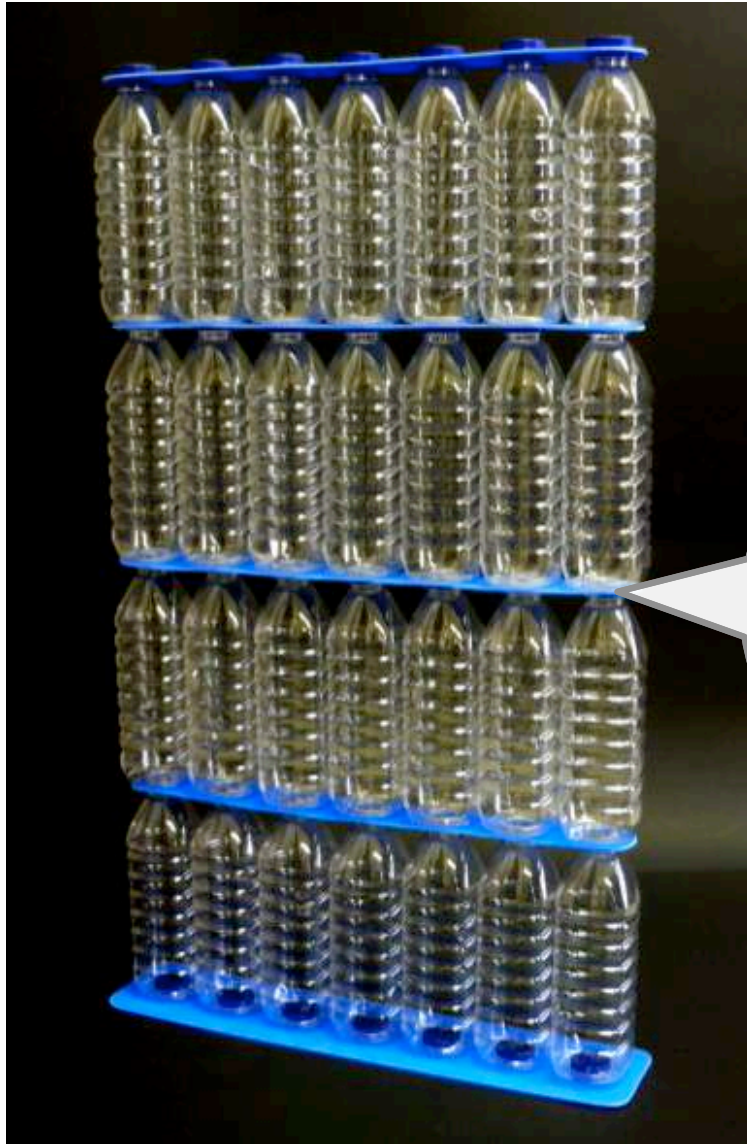
ペットボトル・バケツ／ピッチャー



ペットボトル+スティックのり・
簡易シャベル

もったいないのデザイン

ペットボトル・パーティション



もったいないのデザイン

お菓子のパッケージ・ファッション



もったいない+自立自存の精神

自然と共生しながらサブシステム(自立自存)な生き方をする宮津市・山田昭氏の暮らし



内臓を取ったイノシシを川で半日冷やし、2日間干し、皮をはぎ、解体し冷凍する。エノキ・シメジ・シラタキ・タマネギの芽と猪鍋にする



コノシロの卵、シンコーイカ・カタクチイワシの煮付



シャックリに効く柿の蒂(ヘタ)を保存



石臼の引き手用ツツジ・ビワ(プリコラージュ)



キンカンの栽培



野フキを採り煮物に



柿の皮の保存



タケノコと手作りコンニャクの煮付け



裏山のみかん



イノシシワナ用の屑米



炭焼き窯



籾殻でウドの栽培



大敷網のコノシロ(コハダ)の酔しめ



タラの芽の栽培



タラの芽・竹輪・コンニャクの天ぷら



椎茸の採集と保存



孟宗竹と真竹で竹筴づくり



エビ採り用の網



イノシシ猟のワナ



手長エビ漁のモンドリ



石垣積みも山田氏が行う



ブロッコリーの新芽



手作りのコンニャク



山田昭氏宅



ニンニク保存



タケノコ掘り



手作りの藁筴



薪ストーブ・消し炭・灰



収納小屋、作業小屋が並ぶ



コンニャク芋の保存



栗の木のシラタ(白肌)は



薪を積み備蓄する

もったいない+自立自存の精神

自然と共生しながら サブシステム(自立自存)な生き方をするとはい

自分の力で生きる

ほとんどの食材は購入しないで自分でつくる

自給自足
self-sufficiency

物々交換やおたがいさまの気持ちで地域共生する

互酬性
Reciprocity

必要十分
sufficient

手長エビ漁は食べきれる量だけおこなう

手長エビは高級食でも市場に出さない

非市場経済
Non-market
Economics

共同体規範
community rule

手長エビ漁の仕掛けは20基以内とする

筍・ミョウガなど塩漬けて保存する

備え・保存
preparation

自己規範
self standard

タラの芽は同じところから3度摘まない

もったいない
Don't Waste

浜でホカス雑魚小魚をもらい調理する

(宮津市由良地区・山田昭氏の暮らしより)

もったいない・府大の落葉活用循環

府大キャンパスの落ち葉を美山町大野の有機肥料に

美山町・大野地区（府大大野演習林 400ha）



府大キャンパスの落ち葉

府大演習林
小林氏が搬送

大野堆肥舎（徳田さんの所有地内）
籾殻、発酵牛糞、鶏糞、米糠、山土、及び、落ち葉を使った堆肥づくり



共同堆肥づくり部会（美山認証野菜生産者の会）
美山ふるさと(株) 事務局：美山ふるさと株式会社内

府大で食で大野有機野菜を使用してほしい



京都市伏見区醍醐の生活グループへ

美山ふるさと(株)、NPO（袖岡氏）



大野地区有機農業のお母さんたち



壬生菜、小蕪、小松菜、白菜など

- 落ち葉が必要な理由：1) 農業従事者の高齢化、2) 広葉樹エリアの減少、3) 傾斜地は落ち葉採集に危険、4) 傾斜地に落ち葉が堆積しない、5) 落ち葉採集のトラックが入れない、6) 松茸シーズンと重なり立ち入り禁止、など。
- 府大落ち葉の貢献：堆肥作りに牛糞20m³、籾殻10m³、落ち葉5m³などが需要で、その落ち葉の40%近くを府大が提供している。
- 実績：本学演習林現業者が、23年11月～24年3月までの5ヶ月間に12回、1回6～40袋、計207袋を、府大から大野堆肥舎まで搬送した。